

Archer®オペレーショナルレジリエンス

組織は、どのような事態に際しても戦略目標を達成し続ける必要があります。その中でも最も重要な戦略目標の1つは、顧客に対して製品とサービスを提供することです。しかしながら、パンデミック、気候変動、地政学的脅威、サプライチェーンの中断やサイバー攻撃などによる業務中断が増加、長期化することにより、その能力が脅かされる可能性があります。こうした脅威は、すでに直面しているリスクを拡大する可能性もあります。

今日、組織は、業務プロセス、テクノロジー、データ、人、サードパーティなどの複雑な連携の上に成り立ち、これらが一体となって戦略目標を達成しています。しかし、業務の中断が発生すると、これらの各レイヤーにより複雑さが増幅され、組織の脆弱性が露呈します。さらに、リスクの管理とレジリエンスの構築を主導するチームは、リスク、リカバリ、サードパーティ、ITセキュリティグループなどにサイロ化され、それぞれが異なる目的とアプローチを採用しているのが常です。

業務の中断は戦略目標を脅かし、細分化されたチームはリスクとなる可能性があります。これまで以上に、組織は連携し、準備をし、回復力を持ち、業務中断の影響に耐えるだけでなく、その影響下でも成長できる能力を備えておく必要があります。

オペレーショナル・レジリエンスの構築

組織は、業務中断に対してただ復旧できるという段階から、強靱な業務回復力（オペレーショナル・レジリエンス）を備えるような進化を求められています。つまり、戦略目標を達成し続け、業務中断の最中も、業務中断の後も、適応し、成長するということです。回復力のある組織を構築するには、復旧計画以上のものがが必要です。これは組織全体の回復力の構築を意味します。そのためには、回復力に必要な活動を推進するための優先順位付け、計画、調整、および関与が必要です。

オペレーショナル・レジリエンスを構築する際に考慮すべき組織の属性は次のとおりです。

- 文化：レジリエンス構築が優先事項であるというトーンをトップから浸透させます。
- 連携：各チーム（業務復旧、リスク管理、サードパーティ管理、ITセキュリティ リスク管理）の各チームが連携して変更を主導し、共通のアプローチとツールを使用します。
- 優先順位付け：重要な製品とサービス、およびそれらの依存関係を明確にし、レジリエンスを高めるべきものに集中します。
- リスク情報：統合されたリスク管理基盤の上に構築することにより、定量的なメトリックとレポートを活用して、優先事項の推進、結果の評価、進捗の継続的監視を行います。

- 関与：業務プロセス、IT、サードパーティ、その他に至るまで、組織全体でレジリエンスへの取り組みを推進します。
- A適応：業務中断や変化は起こるものと覚悟し、いつでも対応できる状態を維持します。こうした姿勢は真に回復力ある組織のDNAに組み込まれています。

Archer の利点

Archerオペレーショナルレジリエンスは、業務回復力のある組織を構築するための重要なアプローチの一つです。このソリューションは、規制ガイダンス、現在の標準、およびベストプラクティスに準拠しているため、チームはオペレーショナルレジリエンスの構築の方向性に自信を持つことができます。

Archerオペレーショナルレジリエンスが統合リスク管理を基盤として構築されているのには、いくつか重要な理由があります。回復力のある組織の構築は、ばらばらのチームでは効果的に行うことができません。共通のアプローチと目的に沿って、リスク管理、事業継続、サードパーティリスクなどの、第2防衛線全体で連携する必要があります。この連携は、ビジネスユニット、IT、サードパーティ、および顧客を関与させるための統一されたアプローチも可能にするため、非常に重要です。統合リスク管理により、単一のアプローチにより、重要なものから回復力を高めるよう優先順位付けを行い、サイロ化されたチームの意識を、重要な製品やサービス、およびそれらの依存関係に最も影響を与える可能性のあるリスクと脅威に集中させることができます。

組織が「十分な回復力」を備えているかどうかを知るのは難しい場合があります。したがって、Archerは、目標とする回復力とのギャップを測定するために必要な情報と洞察を提供し、チームが適切な是正措置をとり、レジリエンスを構築することを推進します。オペレーショナルレジリエンスのステータスは、組織と同様に変化します。Archerを使用すると、ステータスを継続的に監視し、状況の変化に適応し、ギャップを特定して対処することができます。

Archer オペレーショナル レジリエンス

Archerオペレーショナルレジリエンスは、オペレーショナルレジリエンスへの取り組みに必要な優先順位付け、計画、調整、関与、および洞察を支援するインタラクティブで自動化されたアプローチを提供します。リアルタイムのダッシュボードとレポートにより、組織のレジリエンスステータスをタイムリーに可視化するだけでなく、意思決定を行う組織全体の人々に対し、業務中断、リスク、脅威、および改善活動の情報を提供します。また、時間の経過とともにアプローチを微調整し、組織全体の関与を促進することができます。

Archerオペレーショナルレジリエンスには、以下のようなユースケースが含まれており、レジリエンス構築の行程を段階的に進められるよう設計されています。

- Archerオペレーショナルシナリオ分析は、組織が顧客に製品やサービスを提供する能力に影響する可能性があり、実際に起こりそうな業務中断のシナリオを理解するのに役立ちます。シナリオを特定し、脅威とリスクを追跡および相関させ、仮定をテストし、組織に最も重大な影響を与える可能性のある測定可能なギャップを特定し、優先順位を付け、焦点を当てることができます。

Archer オペレーショナル レジリエンスは、オペレーショナル・レジリエンスの取り組みに必要な優先順位付け、計画、調整、関与、および洞察を支援するインタラクティブで自動化されたアプローチを提供します。

